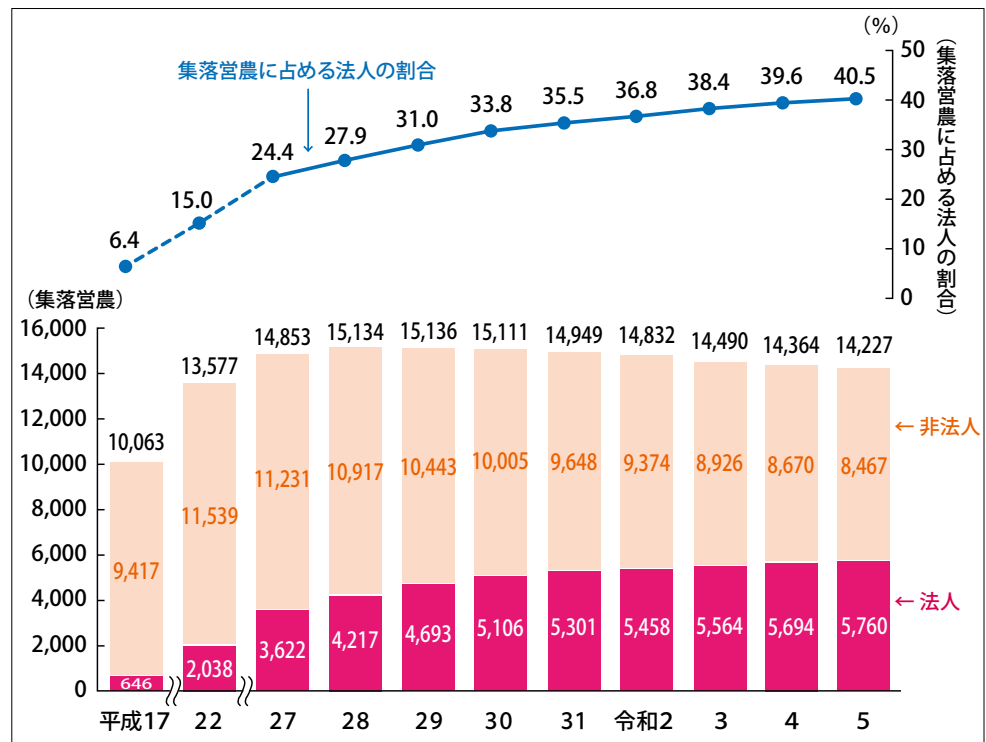


特集  
1

# 集落営農組織の継続を目指して

農業従事者の減少と高齢化が進む中、集落営農の組織化や法人化は進んでいますが、各組織では定年延長や人口減少等により組織の人材確保・育成に対して不安を抱えています。農業の維持・発展を図るためには農業所得の確保が重要であり、農業を担う後継者候補を含む人材の発掘や組織の育成が急務です。集落営農組織では、円滑な経営継承や労働力確保、スマート農業の導入などで生産の効率化を図っています。

集落営農数及び集落営農に占める法人の割合の推移 (全国)



出典：農林水産省

## 集落営農組織の推移

農林水産省の統計によると、全国でこの1年間に解散・廃止した組織は310で、このうち統合による解散は33のため277組織が無くなった一方で、新たに173が組織化されました。集落営農組織は1万4227となり、前年に比べて137(1.0%)減少しました。また、法人化された集落営農組織は5760となり、前年

集落営農の課題						
運営上の課題				構造的課題		
若者の参画が得られない	オペレーター不足	役員の負担が大きい	構成員の多くが無関心	稲作の収益性低下	構成員の高齢化	農業従事者の減少



組織運営の工夫により多くの問題を解決し、活力ある組織運営を実践している組織も存在する

集落営農の工夫			
若い世代が主体となるイベント等開催で参画を促進	構成員の参画意識向上のための情報発信	役員業務内容の明確化とそのルール化で負担軽減	理念・方針の策定と具体的な運営管理を共有

集落営農経営研修会資料より抜粋

## 集落営農組織の課題と工夫

に比べ66(1.2%)増加し、非法人は8467となり、前年に比べ203(2.3%)減少しました。(令和5年2月1日時点) J A管内では、令和5年3月に1組織が解散、令和5年2(4)月に2組織が法人化され、令和5年度は40組織が活動しています。また、令和5年度内に3集落営農組織が法人化を計画しています。

## 集落営農組織に対する支援対策

- ① 担い手へ出向く活動  
TAC等が担い手を訪問し、意見や要望を聞くとともに、経営に役立つ情報をお届けします。
- ② 経営相談  
提携する税理士や社会保険労務士から専門的なアドバイスを提供します。
- ③ 集落営農の組織化・法人化  
組織や法人の立ち上げから関係機関と一体になつて携わり支援を行います。
- ④ その他対応  
労働力不足の解消やスマート農業等のさまざまな情報提供と新たな取り組みを推進します。

## 集落営農経営研修会の開催

J AとJ A集落営農組織連絡協議会は令和5年12月22日、集落営農経営研修会を開きました。研修会には、集落営農組織の代表者や行政、J Aなどが参加し、(株)ケミストリーの村上幸代表取締役が、集落営農の実態や地域と農業の持続性を実現するための実践について詳しく解説し、理解を深めました。



研修会で説明する村上代表取締役④

### 農事組合法人なつかわファーム(花泉)

設立年月	平成 26 年 9 月
組合員数	455 人
経営規模	
主食用米	247.2 <sup>タール</sup>
飼料用米	37.7 <sup>タール</sup>
WCS	176.4 <sup>タール</sup>
転作畑	1.2 <sup>タール</sup>
(トウモロコシ、ズッキーニ、ブロッコリー、ハクサイ)	



代表理事組合長  
及川 雄一さん

#### 組織の特徴

油島、涌津、永井の3つの営農組合が1つの法人を立ち上げ、県内有数の集約面積を誇り、圃場の管理はZIGSを利用してします。J A夏川カントリーエレベーターに搬入した「ひとめぼれ」は福岡県のエフコープに全量出荷されています。「なつかわFarmだより」を年4回発行し、組合員との情報共有を図っています。

#### 組織の課題

約100人の作業受託者の平均年齢は約68歳。また、野菜の営業や販売を担当する専門の職員の雇用が必要と感じています。

#### 今後の取り組み

令和3年8月になつかわファーム中期ビジョンを策定し、令和22年までの組織基盤や生産体制に関するロードマップを作成しました。令和6年からは大豆を作付けし、WCSとの輪作体系の確立などにより、経費の削減と職員の通年雇用を目指しています。

## 管内の集落営農組織の取り組み

### 農事組合法人ファーム小梨(千厩)

設立年月	平成 30 年 10 月
構成農家数	181 戸
経営規模	
主食用米	6.9 <sup>タール</sup>
飼料用米	46.5 <sup>タール</sup>
WCS	7.7 <sup>タール</sup>
大豆	14.1 <sup>タール</sup>
小菊	1.6 <sup>タール</sup>
キュウリ	0.2 <sup>タール</sup>
子実トウモロコシ	0.6 <sup>タール</sup>
牧草等	6.1 <sup>タール</sup>



代表理事組合長  
千葉 賢さん

#### 組織の特徴

設立時から園芸品目(小菊やキュウリ)を導入し、地域の働きたい人の雇用の場となっている他、新型コロナウイルスの影響で主食用米の価格が下がった際に、飼料用米への転換を進めました。また、花だんごやきゅうり漬、ハックルベリータルトなどの加工販売にも取り組んでいます。

#### 組織の課題

60〜70代が中心で、若い担い手の確保の他、中山間地域の水田であるため、湧水による湿田が多く、畑作物が作付けできないことも課題です。また、長期的な視点に立った農業政策を望みます。

#### 今後の取り組み

圃場条件の改善や水田作業の効率化を実現するため、基盤整備を実施したいと考えています。小梨地区の3法人で農業機械の共同利用や肥料、農業の共同購入など、組織間連携にも取り組んでいきたいと考えています。